



YOKOHAMA ASAHI ROTARY CLUB WEEKLY

「ロータリー：変化をもたらす」 Rotary: Making a Difference

2017-18年度 RI会長/イアン H.S.ライズリー RI.D2590ガバナー/湯川 孝則 横浜旭RC会長/滝澤 亮

国際ロータリー第2590地区

横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区二俣川1-37-3 NUTS1階/〒241-0821
TEL.045-465-6702/FAX.045-465-6712
http://yokohamaasahirc.cho88.com
Email:asahirc@titan.ocn.ne.jp

例会場 横浜市旭区二俣川1-45-30工藤ビル
(榎岡田屋3階会議室)

例会日 毎週水曜日/12時30分～1時30分



旭区民まつりにて熊本みかん販売



熊本自転車支援



ガールスカウトとクリーン作戦

2018年3月3日 第2326回例会 VOL. 49 No. 31

IM移動例会

会場 みどりアートパーク

■出席報告

会員数	31名	本日の出席数	12名
本日の出席率	54.55%	修正出席率	93.10%

■本日の欠席者

齋藤、福村、佐藤（利）、佐藤（真）、関口、
本山、目黒、青木、安藤、宋

■第2590地区2017-18年度

第4・第5グループ Inter city Meeting

○担当 横浜緑ロータリークラブよりご挨拶

IM内容としまして、基調講演ではテレビでもよく知られております東京理科大学特任教授、姜尚中氏による現代の貧困子ども達の未来に向けて、の講演と、続いて質疑応答の時間を十分準備しております。会場の皆様との活発な意見交換を期待しております。

現代の貧困と言う社会問題をテーマとしましたが、ロータリアンとしても目をそらすことなく、講演内容を再認識し子ども達の未来を考えねばなりません。休憩後、お笑いの時間といたしまして、落語家桂歌春師匠と噺家コント漫才、コント青年団が出演いたします。十分楽しんで頂けると思います。

従前のIMと趣向が異なりますが、市民参加を第一とし、現代社会の問題点にフォーカスした講演やお笑い等、内容満載なIMになっております。

横浜緑RC会長 井藤 昭宏
実行委員長 武藤 泰典



湯川ガバナーご挨拶

■基調講演

「現代の貧困～子ども達の未来に向けて～」

講師 姜尚中 (カンサンジュン) 氏

*プロフィール

生年月日：1950年8月12日（67歳）

熊本県熊本市出身の政治学者。

東京大学名誉教授・熊本県立劇場館長。

専門は政治学・政治思想史。

在日韓国人二世。通名は永野 鉄男

講演要旨

昨今日本では、地域により所得格差がすすみ、九州熊本と東京港区では5倍近い所得水準に開きがある。昔は地方から東大に入れたが、今は東大は6割早慶は8割が首都圏出身者に占められている。東大生の家庭は年収1千万円以上の家庭が多い。

今、東京にいと地方が分からない。学生のグローバル化と言われながら、日本を良く知らない。

日本の GDP は世界で、米国中国について第 3 位。これは江戸期の寺子屋制度等の庶民の知恵や工夫で、大きな格差を生むことなく、この 150 年間だいたい中流としてならしてきた。幕末の頃は人口が 3,000 万人、この 150 年で人口が 3 倍に増えた、そんな国は他にはありません。

それが今変わりつつある。少子高齢化で、1980 年を 1 すると、2050 年には 0.9 以下が予想されている。人口が増え、インフレが進み、所得が増える、といった過去の推移から、今はその逆が進行している。いわゆる太宰治の「斜陽」ということです。

ただ、斜陽が悪いかと申すと、恐れる必要はありません。それは日本の文化の付加価値が高いからです。

少子高齢化がもたらす貧困の提議ですが、日本で貧困はピンとこない。ヨーロッパでは見ることがあるが、日本では見ることがないから分からない。日本には絶対的貧困はないが、相対的貧困はある。子どもの学校の費用が払えない、修学旅行に行けない。貧困家庭の子どもの最大の疾患は虫歯です。日常親がいませんから。

アメリカは、国に頼らない風土があり、教会、ロータリークラブ、ライオンズクラブ等慈善団体がチャリティーを多く開催している。日本での格差は、アメリカとヨーロッパの中間で、人口の 15% が所得の低い層になっています。

どんな社会でも格差は存在します。ただ、今何が問題かと申しますと、格差が固定化されることです。家庭によって学力格差が確実に出ています。戦後第 3 第 4 世代、関東圏に集中して、今学生は奨学金の返済に苦しんでいる。資本主義である以上格差はある。格差が固定化され、蛙の子は蛙。非正規雇用が高齢化し、次世代に貧困の連鎖が進んでくる。

国全体の話は税の問題となりますが、私達は何が出来るか。かつての日本は寺子屋のように神社仏閣に行けば、学習が出来た。ヨーロッパでは教会がそうであった。東日本震災以降、寺が動き出している。米国では中間層が活躍して、社会を支え、人口は増えている。

日本は国や自治体に頼る風土がありますが、公に頼らない社会を作る必要がある。震災ではじめて「絆」を再確認した。福澤諭吉の「一

身独立して一国独立す。」ここにロータリークラブが重要な役割を担う事にもなります。

フードバンク事業（*規格外、商品の入替えなどの理由で、品質上の問題はないのに廃棄されている食品を引き取り、生活困窮者や福祉施設などへ無償で提供）の分野では、食品関連の企業は二の足を踏みますが、長野の音羽の森のフードバンクでは、回収した食材をフードバンクの製品として再配分する体制をとって、業界の理解を得て運営しています。

来ることが恥ずかしい。配達が難しい。困っている人も困っていない人も一緒に来れる場所を作る。日本の社会は貧しい＝恥と考えることがある。そこには何らかの工夫が必要です。子ども食堂（*家でおなかをすかせていたり、一人でごはんを食べたりしている地域の子どもたちに、無料または低額で食事を提供する取り組み）に、必要な人が来ない。そこで料理教室を開いてみてはどうか。それならコミュニティの和が広がる。これからの日本はヒューマン、人的資源がいきる社会。

日本は戦後一番変わったのは家庭。今何が進んだか、ファミレス等で見かける家族風景では、家族が見な別々の事をやっている。こういう家族は地域社会で交流を続ける。その中で貧困の問題を考える。

今後、公の財政がひっ迫する。これから 40-50 年後年金世代が成り立たなくなる。市場経済とは違う地域社会の仕組みを作る。災害の時も然り。阪神淡路の時、ボランティア元年と云われております。地域社会を強くする。貧困問題がこれからの社会の試金石となります。

小さな善意の集まり、神社仏閣、教会、ロータリークラブ等、中間集団が生き活きとした社会が活力を生む。貧困問題は合わせ技で取り組まなければなりません。ロータリークラブが機関車となり、地域の総合力を高めることを期待しております。

移民の問題。将来の日本の根幹をになう人々をどうするか。世界は回答が今見つからない状況です。ドイツも混乱しています。難民の問題は日本全体でコンセンサス（意見の一致、合意）が出来ていない。急ぐと無理が出ます。（文責 五十嵐）

■次週の卓話

3/14(水) 太田 幸治会員